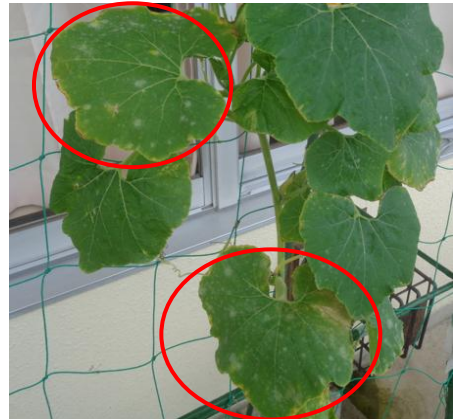
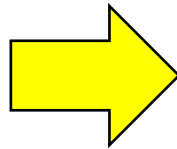


🌱 R7年度 緑のカーテン育成日記【後期】 🌱

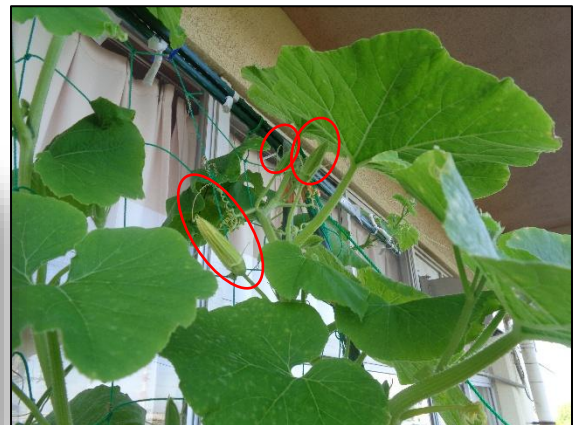
7/23(水) かぼちゃのツルの成長、白斑病の葉の剪定

かぼちゃのツルがネットを超える高さまで成長し、葉が複数つきました。葉が大きく成長するにつれて、再び白斑病が見受けられるようになりました。伝染が著しくなったため、都度水やりの際に注視しました。



7/31(木) ゴーヤツルの摘芯効果が出現

以前摘芯したゴーヤの子ヅルから孫ヅルが枝分かれしたことで葉の密度が高くなり、徐々にカーテンに近づいてきました。さらに結実が盛んになり、大きく成長した個体も現れました。かぼちゃに関しては結実が難しく、人工授粉を試みるため雄花と雌花の咲き揃うタイミングを見計らっていましたが、雌花が中々咲かず、雄花が咲いては萎んでを繰り返す状態がしばらく続きました。



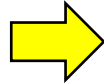
※↑赤印は全て雄花

8/12(火)~8/19(火) かぼちゃの人工授粉と結実

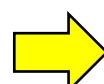
雄花が複数咲いている状態で雌花が咲いたので、人工授粉を行いました。綿棒で雄花の中心にある「おしべ」を優しくこすり、黄色い花粉を採取して雌花に丁寧に付着させました。1週間くらいして、ようやく雌花に結実が見受けられました。前は、子房が変色して萎んでしまったので、慎重に観察した結果、根元の膨らみは徐々に大きくなりました。



カボチャの雄花から花粉を採取。

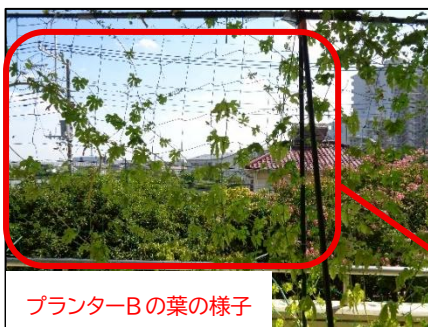


カボチャの雌花に花粉を付着。

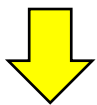


緑のカーテン密度の左右差

ゴーヤの苗はプランターBとCで密度に差が生じるようになりました。前期に記載した通り、時折土壌へ空気を入れ、追肥をして様子を見ましたが、プランターBはCよりも葉が成長しにくいことがわかりました。ここで、土に注目したところ、水を入れていない状態では、プランターCの土壌は乾いているにも関わらず、プランターBの土壌は常時湿り気を帯びている点に気づきました。根を傷つけないように土壌を確認してみたところ、プランターBの中にコガネムシの幼虫を発見しました。



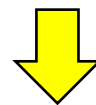
プランターBの葉の様子



◀水やりをしていない状態で常に湿っている。



プランターCの葉の様子



土が十分に▶乾いている。

8/20(水)～ コガネムシの幼虫の除去

この頃から定期的に土の中を確認し、その都度幼虫を除去する作業を始めました。プランターBにのみコガネムシの幼虫が発生した直接的な原因は不明でしたが、プランターBの土には黄色い粒子(おそらく緩効性肥料)がほとんど含まれていなかったことによる、**水はけの悪さによって虫が卵を産みやすい環境となってしまう**可能性があります。

加えて、大量の幼虫による糞も影響し、**土が湿りすぎて根腐れしたり、根自体が幼虫によって食い荒らされたりしたことが葉の密度が低い原因**ではないかと推測しました。



幼虫は即座に除去しないとすぐに潜っていってしまう。



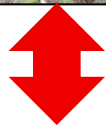
幼虫のすぐそばにいくつか根っこが散見された。

水を与えると…

▶プランターBの灌水時
かんすい



水たまりのようになり、時間経過後も泥の状態が続き、吸水性が悪い。



黄色い粒子が豊富。すぐに土壤に浸透し、吸水性も極めて良好。

▶プランターCの灌水時
かんすい



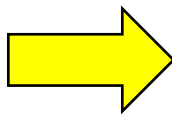
8/21(木)~9/23(火) ゴーヤの収穫及びカーテンの密度がピークに

白斑病の葉の剪定や幼虫の除去、液体・化成肥料の追肥を繰り返し行った結果、この時期になるとゴーヤの実や葉が多く付くようになりました。実は収穫するごとに追肥を行い、栄養不足に陥らないようにしました。特に、幼虫の除去は一定の効果があったのか、葉の密度が高まり少しずつカーテンらしくなりました。大きな実も何度か収穫することができました。昨年よりは小ぶりですが、それでも15 cmくらいまで成長した個体もありました。



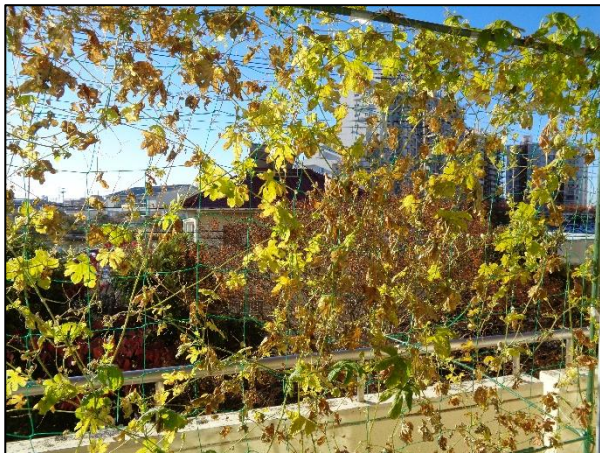
10/11(土)~11/15(土) かぼちゃの実の急成長

前回人工授粉によって結実したかぼちゃは日に日に大きく成長しました。他にも2個ほど結実が見られましたが、最終的には萎んでしまい、結果として1つのかぼちゃの収穫となりました。直径6 cmと非常に小ぶりではありましたが、好条件とは言えない生育環境で最後まで育ててくれて大変うれしく思いました。かぼちゃの葉はゴーヤの葉に比べて、実が成熟すると同時にみるみる葉が枯れていきました。



11/22(土) 終了

葉もほとんど黄色く変色し、密度も非常に低くなってきた時点で、緑のカーテンを片付けることにしました。



【編集後記】

今年度は、ゴーヤとかぼちゃによる「緑のカーテン」の育成を試みました。前年度に比べ成長が緩やかで、理想の形にならず苦慮する場面も多々ありましたが、直面した課題を分析し、対策を講じて改善していくという一連の過程は、図らずも日々の業務の本質に通じるものがありました。
このプロセスこそが、今年度一番の収穫であったと実感しております。

本来であれば、生い茂るカーテンによる遮熱効果などを実証し、そのデータを公開することで、緑のカーテン育成のメリットをお伝えすべきだったのですが、その点を今後の課題とし、今年度の育成日記をここで締めくくらせていただきます。本ページをご覧くださいありがとうございます。